



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月28日

上場会社名 株式会社ファンケル 上場取引所 東  
 コード番号 4921 URL <http://www.fancl.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長執行役員 (氏名)宮島 和美  
 (役職名)取締役専務執行役員 (氏名)島田 和幸 (TEL) 045-226-1200  
 問合せ先責任者 グループサポートセンター長  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	67,986	16.7	1,382	△31.0	1,532	△30.1	921	△45.3
27年3月期第3四半期	58,281	△2.6	2,004	17.0	2,191	8.6	1,683	947.8

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 907百万円(△46.1%) 27年3月期第3四半期 1,682百万円(920.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	14.61	14.40
27年3月期第3四半期	26.44	26.24

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	81,780	70,191	84.9
27年3月期	85,311	73,214	85.1

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 69,462百万円 27年3月期 72,634百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	17.00	—	17.00	34.00
28年3月期	—	17.00	—		
28年3月期(予想)				17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,000	15.9	1,500	△62.5	1,650	△61.5	900	△60.9	14.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

28年3月期3Q	65,176,600株	27年3月期	65,176,600株
28年3月期3Q	2,573,177株	27年3月期	1,152,357株
28年3月期3Q	63,059,548株	27年3月期3Q	63,651,594株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書 .....	8
四半期連結包括利益計算書 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費の回復が鈍く、さらに新興国経済の減速を受け、生産は低下し輸出も低迷するなど、総じて停滞感の強い状況が続いております。先行きは、雇用・所得環境の改善を背景とした個人消費の回復や欧米を中心に緩やかな輸出の持ち直しが予想されるものの、中国経済の下振れ懸念さらには地政学リスクの高まりもあり、回復の度合いは緩慢なものとなる見通しです。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、新中期経営計画(平成28年3月期～平成30年3月期)の方針のもと、戦略的な広告投資を実施したことなどにより、全事業が増収となり、67,986百万円(前年同期比16.7%増)となりました。営業利益は、増収により売上総利益が増加したものの、前年同期に対しマーケティング費用を増加させた結果、1,382百万円(前年同期比31.0%減)となりました。経常利益は1,532百万円(前年同期比30.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は921百万円(前年同期比45.3%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は41,200百万円(前年同期比15.8%増)となりました。

	平成27年3月期 前第3四半期連結累計期間		平成28年3月期 当第3四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	29,357	82.5	33,244	80.7	13.2
アテニア化粧品	5,465	15.4	5,697	13.8	4.2
boscia(ボウシヤ)	—	—	1,513	3.7	—
その他	754	2.1	746	1.8	△1.1
合計	35,577	100.0	41,200	100.0	15.8

	平成27年3月期 前第3四半期連結累計期間		平成28年3月期 当第3四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	17,064	48.0	17,952	43.6	5.2
店舗販売	12,527	35.2	15,227	36.9	21.6
卸販売他	2,361	6.6	3,202	7.8	35.6
海外	3,624	10.2	4,818	11.7	32.9
合計	35,577	100.0	41,200	100.0	15.8

ファンケル化粧品は、新製品「無添加アクティブコンディショニング」、「エイジングケア 洗顔クリーム」などの発売に加え、「マイルドクレンジングオイル」などのプロモーション効果、35周年キャンペーンの展開により好調に推移し、33,244百万円(前年同期比13.2%増)となりました。

アテニア化粧品は、新たな新規獲得商材の投入によるお客様獲得を推進したことに加え、主力製品のリニューアル効果や、既存のお客様向けのキャンペーンなどにより堅調に推移し、5,697百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間から米国子会社FANCL INTERNATIONAL, INC. およびboscia, LLCを連結対象としており、boscia(ボウシャ)についての売上高寄与は1,513百万円となりました。

販売チャネル別では、通信販売は17,952百万円(前年同期比5.2%増)、店舗販売は15,227百万円(前年同期比21.6%増)、卸販売他は3,202百万円(前年同期比35.6%増)、海外は4,818百万円(前年同期比32.9%増)となりました。

営業損益

損益面では、前年同期に対しマーケティング費用を増加させたものの、増収となったことなどにより、営業利益は4,877百万円(前年同期比38.9%増)となりました。

② 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は21,383百万円(前年同期比22.7%増)となりました。

	平成27年3月期 前第3四半期連結累計期間		平成28年3月期 当第3四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	7,033	40.4	8,332	39.0	18.5
店舗販売	4,254	24.4	5,376	25.1	26.4
卸販売他	5,129	29.4	6,666	31.2	30.0
海外	1,015	5.8	1,008	4.7	△0.7
合計	17,432	100.0	21,383	100.0	22.7

製品面では、TVCMを含めたプロモーションを展開した機能性表示食品「えんきん」が大幅に伸長したほか、ダイエットサプリメント「大人のカロリミット」が堅調に推移したことなどにより、増収となりました。

販売チャネル別では、通信販売は8,332百万円(前年同期比18.5%増)、店舗販売は5,376百万円(前年同期比26.4%増)、卸販売他は6,666百万円(前年同期比30.0%増)、海外は1,008百万円(前年同期比0.7%減)となりました。

営業損益

損益面では、増収となったものの、前年同期に対しマーケティング費用を大幅に増加させたことなどにより、前年同期に比べて393百万円悪化し、678百万円の営業損失となりました。

③ その他関連事業

売上高

その他関連事業の売上高は5,401百万円(前年同期比2.5%増)となりました。

	平成27年3月期 前第3四半期連結累計期間	平成28年3月期 当第3四半期連結累計期間	伸び率 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
発芽米	1,808	1,982	9.7
青汁	2,060	2,096	1.8
その他	1,403	1,322	△5.8
合計	5,271	5,401	2.5

**発芽米**は、TVCMを中心とした積極的な販売施策に取り組み、1,982百万円(前年同期比9.7%増)となりました。

**青汁**は、2,096百万円(前年同期比1.8%増)となりました。

**その他**は、1,322百万円(前年同期比5.8%減)となりました。

営業損益

損益面では、増収となったものの、発芽米、青汁のマーケティング費用を前年同期に対し大幅に増加させたことなどにより、前年同期に比べて1,760百万円悪化し、1,587百万円の営業損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産は、前連結会計年度末に比べて3,531百万円減少し、81,780百万円となりました。この要因は、流動資産の減少3,903百万円および固定資産の増加371百万円であります。流動資産の減少の主な要因は、現金及び預金の減少1,836百万円および有価証券の減少4,998百万円と、受取手形及び売掛金の増加1,277百万円、商品及び製品の増加863百万円および原材料及び貯蔵品の増加793百万円であります。固定資産の増加の主な要因は、有形固定資産「その他」の増加などによる有形固定資産の増加751百万円と、投資有価証券の減少などによる投資その他の資産の減少326百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べて508百万円減少し、11,588百万円となりました。この要因は、流動負債の減少483百万円および固定負債の減少24百万円であります。流動負債の減少の主な要因は、未払法人税等の減少1,199百万円および賞与引当金の減少413百万円と、未払金の増加などによる流動負債「その他」の増加1,111百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて3,022百万円減少し、70,191百万円となりました。この主な要因は、自己株式の取得などによる自己株式の増加2,372百万円および配当金の支払いによる利益剰余金の減少2,152百万円と、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金の増加921百万円であります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.2ポイント低下し、84.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における通期の業績予想につきましては、平成27年5月11日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありましたFANCL INTERNATIONAL, INC. およびboscia, LLCは重要性が増したため連結の範囲に含めております。

FANCL INTERNATIONAL, INC. およびboscia, LLCの決算日は12月31日であり、連結決算日との差は3ヶ月以内であるため、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の作成にあたっては、当該子会社の平成27年9月30日現在の四半期財務諸表を使用しております。

なお、四半期連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)および「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間および前連結会計年度については、四半期連結財務諸表および連結財務諸表の組替えを行っております。

### 3. 四半期連結財務諸表

#### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,652	16,815
受取手形及び売掛金	8,721	9,998
有価証券	12,006	7,008
商品及び製品	3,030	3,894
仕掛品	21	11
原材料及び貯蔵品	3,034	3,827
その他	2,534	2,542
貸倒引当金	△49	△49
流動資産合計	47,951	44,047
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,007	25,258
減価償却累計額及び減損損失累計額	△13,896	△14,340
建物及び構築物(純額)	11,111	10,918
機械装置及び運搬具	6,870	7,442
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,938	△6,170
機械装置及び運搬具(純額)	931	1,272
工具、器具及び備品	7,111	7,425
減価償却累計額及び減損損失累計額	△6,018	△6,351
工具、器具及び備品(純額)	1,092	1,073
土地	11,951	11,951
リース資産	384	392
減価償却累計額及び減損損失累計額	△228	△279
リース資産(純額)	155	113
その他	622	1,287
有形固定資産合計	25,865	26,616
無形固定資産		
その他	2,980	2,927
無形固定資産合計	2,980	2,927
投資その他の資産		
投資有価証券	6,087	5,657
その他	2,426	2,529
投資その他の資産合計	8,514	8,187
固定資産合計	37,360	37,732
資産合計	85,311	81,780

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,115	2,069
未払法人税等	1,612	412
賞与引当金	966	553
ポイント引当金	1,420	1,483
その他	4,280	5,392
流動負債合計	10,394	9,910
固定負債		
役員退職慰労引当金	88	-
退職給付に係る負債	1,063	1,057
資産除去債務	359	375
その他	190	244
固定負債合計	1,702	1,677
負債合計	12,096	11,588
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	11,706	11,706
利益剰余金	51,468	50,536
自己株式	△1,362	△3,735
株主資本合計	72,607	69,303
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	-	141
退職給付に係る調整累計額	27	17
その他の包括利益累計額合計	27	159
新株予約権	579	729
純資産合計	73,214	70,191
負債純資産合計	85,311	81,780

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	58,281	67,986
売上原価	17,438	19,977
売上総利益	40,843	48,008
販売費及び一般管理費	38,838	46,625
営業利益	2,004	1,382
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	10	0
受取賃貸料	10	78
為替差益	45	-
雑収入	144	140
営業外収益合計	217	225
営業外費用		
固定資産賃貸費用	-	25
為替差損	-	28
雑損失	30	21
営業外費用合計	30	76
経常利益	2,191	1,532
特別利益		
固定資産売却益	-	0
新株予約権戻入益	4	1
事業撤退損失引当金戻入額	114	-
匿名組合投資利益	-	36
その他	0	-
特別利益合計	118	38
特別損失		
固定資産除却損	18	19
減損損失	14	-
店舗閉鎖損失	41	30
その他	7	12
特別損失合計	82	63
税金等調整前四半期純利益	2,228	1,508
法人税、住民税及び事業税	743	729
法人税等調整額	△198	△142
法人税等合計	545	587
四半期純利益	1,683	921
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,683	921

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	1,683	921
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	-
為替換算調整勘定	-	△4
退職給付に係る調整額	△6	△9
その他の包括利益合計	△0	△14
四半期包括利益	1,682	907
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,682	907
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	35,577	17,432	5,271	58,281	—	58,281
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	35,577	17,432	5,271	58,281	—	58,281
セグメント利益又は損失(△)	3,511	△285	173	3,400	△1,395	2,004

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△1,395百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	41,200	21,383	5,401	67,986	—	67,986
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	41,200	21,383	5,401	67,986	—	67,986
セグメント利益又は損失(△)	4,877	△678	△1,587	2,611	△1,228	1,382

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△1,228百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当企業集団の財政状態および経営成績の適切な理解に資するために、事業セグメントを再考した結果、従来「その他」に含まれていた複数の事業セグメントを「その他関連事業」として集約し、報告セグメントへ記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。